

産業構造審議会 製造産業分科会
鉱業小委員会（第 1 回）
議事要旨

日 時：令和 6 年 10 月 28 日（月）13 時 00 分～14 時 20 分
場 所：経済産業省 本館 17 階第 5 共用会議室 及び WEB 開催
出席者：

- 委員：
縄田小委員長、岩崎委員、
清水委員（WEB）、所委員（WEB）、松八重委員（WEB）、名井委員（WEB）
- オブザーバー：
石垣オブザーバー、久保田オブザーバー、矢島オブザーバー
- 事務局：
浦田製造産業局審議官、山口鉱物課長、小林鉱物課長補佐

議 題：鉱物政策を巡る状況について

資料について事務局より説明後、委員、オブザーバーからの主な意見は以下のとおり。

（所委員）

- ・政策方向に異論はない。
- ・シリコン・黒鉛は、化学・鉱物組成の違いで資源価値が異なる。レアメタルというよりレア素材に近いため、素材・使用方法・製品と連携して資源政策を考えてほしい。
- ・小委員会は分野の近い委員がおり、深い議論できる。そのため、リサイクルについて取組を行っている企業の方々に参加いただいて深い議論をしてはどうか。
- ・銅の権益確保は、重要性が増しているため、オールジャパンで権益を確保してほしい。リサイクルの重要度も増しており、銅とその他が正確に分離され、企業の負担の少ない形でリサイクルできることが重要。

（松八重委員）

- ・資源生産性や国家としての資源の安全保障上の取組であり、非常に重要。
- ・シリコン、カーボンは、素材としても調達が必要である。リンについても、資源量としては豊かでも素材調達としてはリスクが高いため、同様の議論に入れていただきたい。
- ・銅の資源確保は今後強めていくことが必要。調達の意味では、量の確保に加え、グリーンや責任ある調達にも関心が高まっているため、不適切な就労・採掘活動があると組み立て産業側にその責任が問われる。責任ある調達ができるサプライチェーンの構築が必要。
- ・国内の循環資源だけでなく、海外からの調達も検討すべき。循環資源のマーケットもひっ迫してきているため、市場の確保も考えていただきたい。

・リユース市場の構築についても、海外への資源流失を妨げることに つながるため、ご検討いただきたい。

(清水委員)

- ・今回、あまり触れられていないところにルール形成を担う人材育成があるのではないか。
- ・新しいサプライチェーンを作る際、厳しい競争が想定されるため、条約交渉や ISO 等の新しいルール作りが重要。そのため、人材育成や体制強化が重要。

(名井委員)

- ・現在、LME が香港証券取引所の傘下にあることが、将来に向けての懸念材料ではないか。実際に、昨年発生したニッケルを巡る問題でも、訴訟問題に発展するといった事案も見られる。
- ・事態が深刻化してからでは対策を講じることは困難かと思うため、様々な観点から前広に議論を行っておくことが有益ではないか

(岩崎委員)

- ・産業政策と鉱物政策との一体化が組織改編の目的であるから、素材や最終製品の関係者と、今まで以上に連携を深めていただきたい。そして、産業として寄与することをお願いしたい。
- ・ルール形成などを担う人材の育成でも JOGMEC への期待が大きいが、JOGMEC だけではなく、バリューチェーンの下流への投資には、金融機関・保険・デューデリジェンスなども関係してくるため、このような周辺産業も巻き込みながら、政策を遂行できるように具体的な打ち手を講じていただきたい。

(久保田オブザーバー)

- ・レアメタル、ベースメタルの方向性をクリアに示していただいた。政策実施機関としてはこうした方向に沿って活動していきたい。
- ・備蓄は最後の砦として取り組んできたが、今後アグレッシブに全面に出ていくことも求められているため、意識や体制を変えていきたい。
- ・近年はレアメタルにフォーカスしていたところ、銅・ベースメタルについて重要性を認識し、方向性を示していただいたことを嬉しく思う。
- ・国際的なルール・仲間作りについては、これまではバイの関係が多かったが、マルチも重視し資源国のみならず消費国と連携していく。人材を作っていくことは難しいところがあるが取り組んでいきたい。

(矢島オブザーバー)

- ・レアメタル・ベースメタルともにしっかりやっていてもらいたい。
- ・東南アジア等でリサイクルを推進するためには、リサイクルすることで得になるように規制を環境省などと連携し強化することが重要。

- ・ フロンティア地域は、地域で絞るのではなくリスクの高い地域というところで、支援の対象を決めていただけるとよい。
- ・ 鉱山の開発とリサイクルを含む国内の製錬を一緒にやっていくことが必要であり、製錬ネットワークを強くすることが重要であるため、製錬コストのところを支援いただけるとありがたい。
- ・ 人材育成については資料に明示的には出てないが、人材育成は重要。経済安保のサプライチェーン等に関連する分野について広く対策を考えていただけるとありがたい。

(石垣オブザーバー)

- ・ 中下流へ原料を供給するユーザーとしては、上流である鉱物資源の安定供給が重要。
- ・ 全体としてサプライチェーンを俯瞰すること、リサイクル・リユースの必要性はまさにその通りであり、経済産業省の組織再編も踏まえてできるところを実施いただきたい。

(縄田委員)

- ・ 産業構造審議会に移ったため、中下流まで含めた鉱物資源政策を考える機会を生かすべき。
- ・ 物を作る際、環境・人権を無視しているようなものを使わない、リサイクルしやすいような設計を最初から入れる、というユーザーが責任を持つシステムを構築することが安定にとって不可欠。
- ・ 国際的なイニシアチブも日本が取り、サステナブルな仕組みを考えていくことも必要。

(事務局)

- ・ 製造産業局に移管し中下流との連携を密にとるようになり、局全体でサプライチェーンを見ている。中下流を見ることで強化すべき鉱物も出てきており政策に生かしている。
- ・ 人権・環境上問題ないか重要であるため、JOGMEC が支援する案件についてデューデリジェンスをしていく。カーボンニュートラルが世界全体で進む中、鉱物の生産でも水力発電等を利用したグリーンの観点も見ていきたい。
- ・ ルールメイキングについて、MSP 等のマルチの取組で具体化できるよう協力するとともに、日本の産業にとって良いものになるよう取り組んでいく。ISO も JOGMEC がルールメイクに関与しており、仲間作りも意識して ISO の議論をしたい、そのための人材育成もしっかり取り組む。
- ・ リサイクルの実証支援をしている企業に小委員会にて説明をいただき、議論したい。循環経済規制の環境省との連携につても、適宜協力していきたい。
- ・ 精錬ネットワークが重要であるため、十分議論したい。
- ・ リユースについておっしゃる通り重要であるため、取組を自動車課等とともに考えていきたい。
- ・ LME についても他国と議論する際に意識していく。
- ・ 備蓄の役割について、中国の輸出管理等がある中で重要性が高くなっており重要。
- ・ フロンティア地域については、民間がリスクを負えないリスクが大きいところにつきましては、国として支援していく。

■ 本日の議論は今後開催予定の総合エネルギー調査会資源・燃料分科会において、必要に応じ議論する。

お問い合わせ先

製造産業局鉱物課

電話：03-3501-1511（内線 4701）

FAX：03-3580-8440